

2008年 安全運転普及活動報告書

Report On Driving Safety Promotion Activities 2008



すべての「人」の安全を目指しています



ごあいさつ ③

Honda安全運転普及活動の考え方と歩み ④

2008年の安全運転普及活動 ⑥

地域に根ざした普及活動の充実
地域活動拠点 ⑩



自動車教習所との連携 ⑫



四輪・二輪・汎用販売会社の活動 ⑭



交通教育センターの活動 ⑯



先進性・独自性ある活動の強化
研究・開発活動 ⑱



活動の連携 ⑳



海外活動 ㉒



安全運転普及活動拠点 ㉔



安全運転普及本部この1年の歩み ㉔



本田技研工業株式会社 取締役
安全運転普及本部 本部長

曾田 浩

日頃はHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで今年もさまざまな分野で安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼申し上げます。

さて、本年の交通事故死者数は毎月前年を下回り（9月現在）、第8次交通安全基本5ヵ年計画の「2012年までに死者数を5,500人以下」という目標に対し大変順調に推移しております。これは行政、関係諸団体はもとより、交通社会に参加する1人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。しかし、今後さらに高い政府目標である「事故のない道路交通において世界一安全な国」の実現に向けては、これまでも増して高齢者、自転車の事故対策などの重点課題に官民一体、地域一体となって取り組む必要があると認識しております。

これまで、Hondaは人に焦点を当てた「手渡しの安全」という考えから、四輪・二輪・汎用製品の販売会社による啓発活動や全国8ヵ所の交通教育センターにおける参加体験型の実践教育活動を中心に展開してまいりました。また交通安全教育を生涯教育の1つとしてとらえ、子どもや高齢者向けの教材開発、教育の実践にも取り組んでまいりました。

今年はこれらに加え、「地域に根ざした活動の充実」に向けて新たな活動をスタートさせました。まずは、私どもの熊本製作所内に「安全運転普及グループ」を設け、趣旨に賛同いただいた関連企業様にも安全運転指導者を育成していただき、熊本を中心とした九州エリアで、地域と連携をしながら学校での交通安全教室や啓発イベントなどの活動を展開してまいりました。

また、私どもと志を同じくする各地の指定自動車教習所様と連携し、Hondaの交通安全教育ノウハウやシミュレーターなどもご活用いただき、「地域の交通教育センター」として地域における交通安全活動を一層広めていく取り組みも始めました。

地域の皆様と一体となって地域の実情に応じた交通安全活動を継続的に行うことにより、より安全意識の高い交通参加者が育ち、活動の定着が図れるものと確信しております。いずれも緒についたばかりですが、今後は販売店店頭での活動の充実と併せ、さらに展開を拡大する予定です。

私どもはこれらさまざまな活動を通じ、多くの方々に安全を手渡しすることで「より豊かなモビリティ社会の実現」に向け、一層努力してまいりたいと思います。

最後に、皆様のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げますと共に、私たちの活動への変わらぬご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

すべての「人」の安全を目指して

Hondaは、すべての「人」の安全を目指し、

ハード(製品)とソフト(安全教育)の両面から安全を追求しています。

ソフト面の活動を進める安全運転普及本部は、わが国の交通事故死者数が1万6,765人を記録した1970年に設立され、二輪、四輪の運転者を主な対象にした「人から人への手渡しの安全」と危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本とする活動を開始しました。

以来、途切れることなく活動を続け、今日では子どもから高齢の方までを対象に広く交通安全活動を展開、より豊かなモビリティ社会の実現を目指しています。

Honda安全運転普及活動の歩み (1964年から2007年まで)

1960年代

- '64/鈴鹿サーキット安全運転講習所(79年より鈴鹿サーキット交通教育センター)開設、白バイ隊員の運転教育に協力
官公庁など対象の二輪トレーニング開始



1970年代

- '70/ホンダ安全運転普及本部設立
安全運転読本「セーフティーポイント」(二輪、四輪用)、Honda全車種にセット
- '71/インストラクターを養成し、本部、地区に配置
販売店店頭活動、地域社会活動のための安全運転普及指導員制度スタート
- '73/交通教育センターレインボー福岡オープン
- '74/普及指導員1万名突破
- '75/全国14ヵ所で「青少年と交通安全」シンポジウム開催
- '77/二輪ユーザーを集めた「日本セーフティクラブミーティング」開催
- '78/ブラジル・サンパウロの交通教育センターオープン
「二輪車の事故分析」85年まで刊行
- '79/「Hondaモーターサイクリスト・スクール(HMS)」開講
Honda救急法(HFA)指導員養成スタート



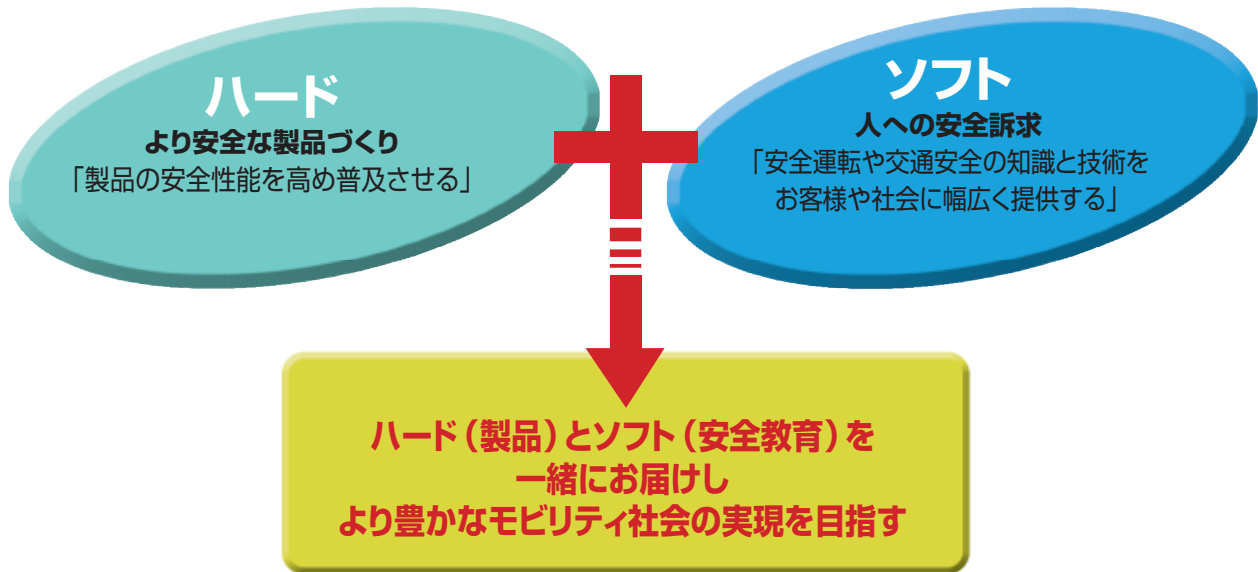
1980年代

- '80/グッドライダーの全国組織「全日本セーフティクラブのつどい」発足
女性のための原付講習会スタート
交通教育センターレインボー埼玉オープン
フィリピンでHondaライディングアカデミーが活動開始
- '81/安全運転普及本部の教育体系に基づく教育プログラムと教材完成
(二輪用、四輪用)
- '82/「いい運転したいですね」のスローガンとともに、普及活動の全国展開
交通教育センターレインボー浜松オープン
HMSの1日コース「ワンデースクールHMS」を88年まで全国100~150会場で開催
- '84/二輪販売会社を中心にした「セーフティアップ」活動、全国展開
- '85/交通教育センターレインボー大阪オープン
シンガポールにシンガポール・セーフティ・ドライビング・センター(SSDC)オープン
- '86/「全日本セーフティクラブのつどい」解散、替わって二輪ユーザー会員組織「H・A・R・T」発足



- '88/Hondaスポーツライディング・スクール、全国150会場でスタート
H・A・R・T ツーリング・イン・ジャパン、91年まで各地で開催
H・A・R・T 100万人セーフティキャンペーン実施
アメリカンHondaライダーエデュケーションセンター設立
- '89/交通教育センターレインボー熊本オープン
タイA.P.Honda、安全運転普及本部設置、本格活動スタート

Hondaの安全に対する考え方



1990年代

- '90/シンガポールにプキ・バト・ドライビング・センター (BBDC) がオープン
カナダにセーフティ・ライド・センターがオープン
- '91/一般ドライバー向け「Hondaドライビング・スクール (HDS)」スタート
Hondaライディングシミュレーター発表
- '92/ドライビング・セーフティ・マネジメント・フォーラム開催(現トラフィック・セーフティ・フォーラム)
鈴鹿モビリティ研究会発足
- '93/スペインモンテッサHondaの二輪車安全運転訓練センターオープン
交通教育センターレインボー熊本で身体障害者の「セーフティクラブ肥後」のドライビングスクール開講
- '94/「親子でバイクを楽しむ会」発足
セーフティコーディネーター(四輪販売会社)養成スタート
- '95/小学生対象交通安全教育プログラム「あやとりい」スタート
- '97/交通教育センターレインボー和光オープン
アクティブセーフティトレーニングパークもてぎオープン
セーフティジャパンインストラクター競技大会スタート
- '98/ライディングアドバイザー(二輪販売会社)養成スタート
ブラジルにHonda・ダ・アマゾンニア交通教育センターオープン
- '99/「あやとりい 自転車教室」スタート
「あやとりい ひよこ編」スタート
Hondaベトナムが交通教育センターオープン



2000年代

- '01/Hondaドライビングシミュレーター発表
全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会スタート
- '02/交通教育センターレインボー浜名湖オープン
レインボーディーラー制度(四輪販売会社)スタート
- '04/「あやとりい 長寿編」スタート
- '05/セーフティサポートディーラー制度(二輪販売会社)スタート
Hondaターキー(トルコ)が交通教育センターオープン
- '06/動画KYTスタート
中国五羊本田安全運転トレーニングコースオープン
- '07/自転車シミュレーター発表
「Honda健康ドライブスクール」スタート



地域に根ざした継続性ある活動を！ 子どもから高齢の方まで、 すべての「人」の安全を目指しています

安全運転普及本部 事務局長

千葉 英雄

はじめに

Hondaは二輪・四輪・汎用製品を製造販売する会社として、お客様に対して単に製品をお渡しするだけでなく、安全も一緒にお渡しするという理念のもと、「Hondaが社会的責任として行う企業活動」として、1970年から安全運転普及活動を続けてまいりました。

現在は、ますます複雑化する混合交通社会の中で、運転する方だけではなく、子どもから高齢者の方々まで、いわゆる生涯教育の1つとして、すべての交通参加者を対象に普及活動を展開しております。

私どもの普及活動は「指導者の育成」「教育の場と機会の提供」「教育プログラムと手法の開発、教育機器の開発・提供」を3本の柱とし、

- 1.全国にあるHondaの二輪・四輪・汎用製品を販売する会社での店頭活動
- 2.全国8カ所の交通安全センターの各種安全講習会

で、参加体験型の教育、啓発活動を実践してまいりました。

私どもはこれらの活動を通し、交通安全の活動が、各地、各所で根を張り、大木に育つことを理想としています。交通安全の活動は、一過性のものではないからです。「指導者の育成」を柱の1つとしてきたのは、各地、各所で地域に根ざした交通安全活動を定着させ、継続的に進めるための核となる

人たちだからです。

南から北まで全国展開を目指す

新たな取り組み

1.九州地区の活動からスタート

地域に根ざした定着性、継続性のある活動を全国的に展開するため、今年は2つの新しい活動に取り組みました。

1つはこの4月から熊本製作所に普及活動の専任部隊を組織化し、九州地区を対象に始めた交通安全の新しい取り組みです。Hondaの製作所や研究所、関連企業のある地域をベースに、全国的に展開しようというもので、まず熊本製作所のある熊本県からスタートさせました。

地域に根ざした活動には、これまで鈴鹿製作所のある三重県を中心に、子どもたちを対象にした「あやとりい」*教育や高齢者の自転車教育、歩行者教育を行ってきた実績があります。

今年熊本を拠点に始めた活動は、私どもと、関連企業が一緒に行うもので、九州地域にある関連企業の皆様の賛同を得て、各社の従業員からなるインストラクター集団を作り、一体となって活動を展開しております。

私どもは関連企業のインストラクターをHondaパートナーシップ・インストラクターと呼んでいます。

わずか半年の経験ですが、地域には交通安全に

* あんぜんを・やさしく・ときあかし・りかいして・いただくの略。幼児向け「あやとりい ひよこ編」、小学3、4年生向け「あやとりい」、小学生対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」があります。



ついて、子どもにも高齢者にも、また各種の企業や団体にも多くのニーズがあり、また適切な教育プログラムが求められていることを切実に感じています。

私どもが生涯教育の一環として開発した幼児・学童向け「あやとりい」、高齢歩行者や自転車利用

者対象の「あやとりい 長寿編」、あるいは企業・団体用の「危険予測トレーニング」などの教育プログラムは、地域のニーズに応えるものとして皆様から歓迎されていると実感しています。

今後も、地域や団体が必要とする指導者育成の支援、またすでに活躍している交通安全指導員な

安全運転普及活動の体制

活動の場				活動内容	指導者	主な対象			
						子ども	学生	成人	高齢者
国内	販売会社	四輪	レインボーディーラー制度	店頭安全アドバイス 安全ミニ講習会 ドライビングスクール 地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター チーフセーフティコーディネーター				
		二輪	セーフティサポートディーラー制度	店頭安全アドバイス ライディングスクール 地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー スポーツライディングスクール インストラクター				
		汎用		店頭安全アドバイス	モンパル安全運転インストラクター モンパル安全運転指導員				
	交通教育センター		運転者、指導者研修 二輪・四輪販売拠点研修 一般ライダー、ドライバースクール ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング 指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会 各年代別講習	交通教育センターインストラクター					
	地域活動拠点		地域の交通安全活動協力 指導者養成協力	Hondaパートナーシップ・インストラクター					
	自動車教習所との連携		地域の交通安全活動協力						
	Honda事業所・関連会社		従業員への交通安全指導 Hondaファーストエイド	安全運転インストラクター Hondaファーストエイド主任講師 Hondaファーストエイドインストラクター					
	地域活動		教材開発 指導者育成 授業実施	教職員 交通安全指導員					
	業界活動		交通安全キャンペーン 交通安全教育プログラムの編纂 指導者養成協力						
海外	現地法人		販売拠点(四輪・二輪)	店頭安全アドバイス ドライビングスクール ライディングスクール 地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター				
			交通教育センター	指導者研修 二輪・四輪販売拠点研修 一般ライダー、ドライバースクール ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング 地域の交通安全活動協力 運転免許取得講習 指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター				



ど指導者の方々の活動支援のために、Hondaの教育プログラムやノウハウを積極的に提供していきたいと考えています。

当然のことですが、地域の活動では、自治体、警察署など行政・諸団体や地域住民の皆様との密接な連携が不可欠です。一層のご支援、ご理解をいただきたいと願っております。

2. 指定自動車教習所との連携

今年、新たに始めた活動の2つ目は、地域の中で交通安全活動を積極的に進めておられる指定自動車教習所様との連携です。

私どもの交通教育センターがカバーできる範囲は限られています。活動エリアを全国に広げるためには、私どもと同じような考えで活動を進めておられる自動車教習所様との連携が不可欠と考えています。

すでにいくつかの自動車教習所様と業務提携を結び、Hondaの安全教育ノウハウを使った交通安全教育や啓発活動などが始まっています。

全国展開の要 販売会社の新たな取り組み

お客様や地域との接点になるHonda四輪、二輪、汎用販売拠点は、全国規模で活動の定着と継続を目指す私どもにとって、重要な活動の場の1つです。

安全運転に関するHonda社内資格を取得した販売スタッフやサービススタッフが、お客様の経験

や困りごとに応じて、店頭で直接安全の知識や乗り方をお伝えしています。

また、販売店の駐車場や教習所のコース等を使い、車庫入れのような苦手克服から、滑りやすい路面でのブレーキ体験など、お客様のニーズに合わせた安全講習会も開催しています。今年は約3,000回（10月現在）行われ、約1万人のお客様が参加されました。

今年はまた、富山県や熊本県の四輪販売会社のように、積極的に広く地域の方に参加を呼びかけて講習会など安全イベントを開催したところも出てきています。

Hondaならではの販売会社店頭の安全活動を、今後とも強化していかなければならないと考えています。

全国8カ所の交通教育センターの活動

交通教育センターは、主として企業・団体の運転者、安全管理者と、各種スクールを受講する個人を対象に活動を行っています。年間の利用者は今年は8万人（10月現在）を超えました。

交通状況を動画で再現する「動画KYT（危険予測トレーニング）」は、集合教育の中で実践的に危険予測力を高める教育手法として企業様からの受講希望が多くなっています。

また、自治体からの要請で高齢ドライバー向けの研修「Honda健康ドライブスクール」や小学生



や中学生対象の自転車教室の実施など、地域と一体となった活動も広がっています。

先進性・独自性ある活動の強化

1. 気づきを促す実践的教育プログラムの開発

交通安全教育を進めるための教育プログラムと教育機器の開発・提供は、私どもが一貫して行ってきた重要な活動の1つです。

Hondaの教育プログラムは「危険を安全に体験する」を原点に、「参加し、体験し、体験を通して気づく」ことを特徴にしており、気づきを促す手法として、コーチング手法を採用しています。自らが気づくことが、自身の交通行動を変えるために重要との認識からです。

また、教育機器であるシミュレーターは、運転操作の練習だけでなく、危険の疑似体験、自分の運転への振り返りなど、実践的に気づきを促す教育を進める最適なハードウェアです。

これまで培ってきたシミュレーターの技術を使って、より広く、より多くの方にご活用いただけるように、小型のドライビングシミュレーターの開発を進めています。

自転車シミュレーターは、複数の教育現場で、自転車教育の効果的なプログラム作成に向けた取り組みを進行させています。個人指導など日常的に活用できる方法や、自転車シミュレーターで集合教育を可能にする手法など、すでにいくつかの成



果も上げています。

幼児や児童を対象にした「あやとりい」も、より現場で使いやすく教育効果のあるプログラムとするための開発にとりかかっています。

今後も、さまざまな交通安全教育の現場でより実践的な活動を進めるため、Hondaらしい先進性のある教育プログラムや教育機器を開発し、広く社会に提供していきたいと考えています。

2. 交通社会に潜在的に存在する課題の研究

複雑、多様化する交通社会では、潜在的な課題を予測し、発見し、先行的に対応を準備することが必要です。交通社会に影響を及ぼす社会的諸因子、各種交通手段の変化、交通事故の未来予測の研究を進めるなど、次の課題を明らかにするための調査研究にも着手しています。

2009年に向けて

私どもは来年度も「地域に根ざした活動」をさらに進化させ、加速していきたいと考えております。

交通社会が抱える問題から見ましても、また私どもが進める交通安全の生涯教育の観点から見ましても、地域を主体とした交通安全教育は、ますます重要性を増していくと考えられます。

世のため、人のため、交通安全のため、より豊かな交通社会の実現を目指し、皆様のご理解、ご協力を賜り、さらに活動を強化してまいります。

地域の方々と一緒に 交通安全の普及活動に取り組んでいます

地域に根ざした活動 九州地区でスタート

子どもから高齢者まで、各年代に応じた活動を全国で展開するため、安全運転普及本部は、地域に活動拠点を設置し、新しい展開をスタートさせました。

これはHondaの製作所がある地域に安全運転普及本部の拠点を置き、地域の方々と一緒に交通安全の活動を展開するもので、「地域に根ざした活動」として、今年4月、九州地区から始めました。

市や町と協力して交通安全を広げる活動では、安全運転普及本部の「鈴鹿モビリティ研究会」*1が1993年から三重県鈴鹿市で、幼児、児童、高齢者を対象に始めた交通安全教育「あやとりい」シリーズ*2の普及活動など、成果を上げてきた実績があります。

熊本に「安全運転普及グループ」設置 協力会社とともに活動開始

九州地区では、まず熊本製作所内に「熊本安全運転普及グループ」を設置（専任メンバー4名）。さらに九州各地のHonda協力会社38社で作る「熊輪会」^{（ゆうりんかい）}に呼びかけ、7月に協力会社内にインストラクター18名を養成しました。

安全運転普及グループは「熊輪会」とともに、市町村、警察、学校などと連携し、小学校での「あやとりい」安全教育、自治体共催の交通安全イベント「親子交通安全教室」、企業・団体の交通安全研修への協力など、活動を本格化させています。

交通安全では官と民、互いの強みを出して 力を合わせる事が大切

活動の第一弾は、夏休み前の7月12日に、熊輪会会員会社と共催した「第1回人吉地区親子交通安全教室」です。自転車の左折巻き込み実験を小学生の子どもと体験した保護者の1人は、「自転車に乗り始めたばかりで、道を走るのに慣れていない子どもにはぴったりの内容」と、参加体験型の教育の大切さを実感していました。

11月までに、熊本製作所の地元、大津町の小学校3校で、小学3、4年生を対象にした交通安全教育プログラム「あやとりい」も授業の一環として行いました。年度内にさらに3校実施する予定です。

授業を見学した地元警察署交通課長は「警察と企業が連携し、お互いの特徴を活かした取り組みが、九州の他の地域に拡大していくことは大変意義深いことだ」と語っています。

地域の指導者育成にも協力

年末までに、親子交通安全教室、企業・団体の交通安全研修、Hondaの協力会社や四輪、二輪販売会社が主催する地域イベントでの安全講習会など、スケジュールはぎゅぎゅ詰まっています。

また、バイク通学の高校生、高齢のドライバーや歩行者対象の安全講習会、さらに「あやとりい」「KYT（危険予測トレーニング）」などの指導者の育成も、地域の要望に応じて行っていく予定です。

*1 三重県鈴鹿市とHondaの協力で1993年に設立され、交通安全教育と道路施設の改善を2本の柱として交通事故減少に取り組んでいます。

*2 あんぜんを・やさしく・ときあかし・りかいして・いただくの略。幼児向け「あやとりい ひよこ編」、小学3、4年生向け「あやとりい」、小学生対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」があります。

2008佐賀インターナショナルバルーンフェスタ



インストラクターの養成



熊輪会のインストラクターは、四輪・二輪の安全運転指導方法を学びました。

親子交通安全教室



第1回人吉地区親子交通安全教室は、周辺の6市町村が共催し、251人の親子が、歩行者の飛び出し実験、車の死角の確認などを体験しました。

「あやとりい」を使った授業



製作所のある大津町内の小学校で行われた「あやとりい」の授業。子ども自身に考えさせ、体験させることで、印象づける教育方法が、教育関係者の皆様から評価されました。

イベントへの協力



熊本市で20年続くカントリーソングの国際イベント「カントリーゴールド2008」の来場者に交通安全をお伝えしました。

企業・団体の交通安全研修協力



労働基準協会の依頼で、危険予測力を高めるためのトレーニングを実施しました。

Honda交通安全シンポジウム in 沖縄



地域の交通安全活動に寄与するため「Honda交通安全シンポジウムin 沖縄」を開催。

同じ志を持つ自動車教習所とともに 地域に交通安全を広げていきます

交通安全の生涯教育をサポートする

交通安全教育は、生涯教育として地域の中で長く継続し、展開していくことが求められています。Hondaは、地域で交通安全教育に主体的に取り組まれている自動車教習所と連携し、交通安全をさらに広げ、定着させる活動をスタートさせました。

自動車教習所は、地域で交通安全教育を行うセンターとしての役割が期待されています。社会のニーズに応え、運転免許取得時教育だけでなく、免許を持った方々や、子どもから高齢者まで、交通安全の生涯教育に真剣に取り組んでいる教習所も増えています。

同じ志をもつ自動車教習所と連携することによって、より広いエリアで、地域の交通安全に貢献していくことが可能になりました。

Hondaは、交通安全教育プログラム、教材の提供、指導者のレベルアップ教育などで協力し、教習所が主体的に行う交通安全活動をサポートしています。現在13の自動車教習所との業務提携を結んで、活動を進めています*。

Hondaの交通安全教育プログラムを活用

提携先の1つである長野県のドリームモータースクール様は、企業ドライバー、高校生、高齢者の交通安全教育など地域に開かれた交通安全教育を行っています。提携を機に、Hondaの教育機器や交通安全教育プログラムを活用した新しい試みを採用しました。

卒業を控えた地元の高校3年生を対象にしたプレドライバー教育では、指導員が運転する車に同乗しての

急ブレーキ体験、携帯電話を使いながらの自転車の危険体験など参加体験型の講習を実施しています。その中でHondaの自転車シミュレーターを使った危険予測トレーニングを取り入れました。さらに、四輪販売会社の営業スタッフの交通安全研修に、エコドライブのトレーニングを加えました。燃費計を使ってエコドライブの効果を確認するとともに、急加速、急ブレーキをしない運転が、安全につながることを体験的に学ぶことができます。

一緒に教育ソフトを開発

青森モータースクール様では、高校生向け交通安全教育プログラムを使って、地元の高校を対象に授業の一環として高校生安全教室を行ってきました。その中で、Hondaの自転車シミュレーターの新しい活用法にチャレンジしています。

シミュレーター教育では受講者1人ひとりが危険を安全に体験しながら、危険予測力を高めることができます。この機能を、学校や地域が行う集合教育の場において、効果的に活用するための試みを協力して行いました。生徒の1人にシミュレーターで携帯メールや傘差し運転をしてもらい、その映像を見ながら、コーチング手法を使って生徒同士が話し合いを進め、危険に気づかせるというものです。

教習所と連携する中で、新しい教育プログラムの開発などにチャレンジしていくこともできるようになります。

* 2008年10月現在

高校生安全教室(青森モータースクール)





ドリームモータースクール様のセーフティフェスティバルでは、自転車シミュレーターを使ってお子様に危険予測トレーニングを体験していただきました。



エコドライブの研修では、環境にやさしい運転が安全につながることを学んでいただきます。



青森モータースクール様では、自転車シミュレーターを使った高校生安全教室を実施しました。モニターの映像をプロジェクターで投影し、コーチング手法を活用して話し合いを進めることで、多人数での研修を行っています。



提携教習所



(2008年10月現在)

販売会社での店頭活動は、 地域に密着した活動へと展開しています

自動車からモンパルまで ニーズに応じて安全をサポート

Hondaの四輪・二輪・汎用販売会社では、お客様に安全・快適に乗っていただけるよう、店頭での安全アドバイスや参加体験型の安全イベントなど、お客様のさまざまなニーズに応じて手渡しで安全をお伝えする活動を進めてきました。

店頭での安全活動をさらに充実させるため、「セーフティコーディネーター資格」(1994年/四輪販売会社)、「ライディングアドバイザー資格」(1998年/二輪販売会社)、「モンパル安全運転指導員資格」(2000年/汎用・二輪販売会社)を導入し、専門の安全研修を受けたスタッフによる店頭活動を実施しています。

[四輪販売会社]

店頭活動から地域の活動へ

四輪販売会社の安全活動は、店頭だけでなく、地域に向けた活動に発展しています。

Honda Cars富山では、子どもから高齢者まで交通安全を楽しく学べる「親子安全教室」を開催しました。

また、全国交通安全運動に合わせ、富山県内の全Honda四輪販売会社(8法人・27拠点)が一体となった安全講習会も開催しています。地域の方々に広く参加いただけるよう新聞での告知・報告もしています。

熊本県のHonda Cars熊本では、「安全運転推進本部」を設置し、専任スタッフを置いて、地域社会に向けた活動を始めています。

[二輪販売会社]

安全講習会を年間

100回以上開催の販売店も

二輪販売会社では、地域の販売店共催によるツーリングなど、大規模なイベントも行っています。

9月に阿蘇で行われた「九州ホンダドリーム合同ミーティング」では、九州地区のHonda Dream店全14拠点が結集。大人から子どもまで約200名が参加したイベントで交通安全を訴求しました。

お客様のニーズに積極的、継続的に応える活動も、販売会社の大事な仕事です。

「(株)ホンダ二輪・新宿」では、三輪スクーターを使う宅配会社様などの要望で、安全講習会を開催しています。近隣の自動車教習所の教習コースを会場に、今年も100回以上開催しました。

[汎用販売会社]

1人ひとりのお客様へ

丁寧に安全アドバイスを行っています

高齢の方を中心に日常の足としてご利用いただいている電動カート「モンパル」は、お客様のお住まいやご利用状況に合わせ、個別に具体的なアドバイスを実施しています。

埼玉県の「オールホンダ販売(株)」は、納車時のアドバイスだけでなく、運転に慣れてきた約1ヵ月後に訪問し、普段通られる道を一緒に走って、きめ細かなアドバイスを行っています。

親子安全教室 (Honda Cars富山)





親子や高齢者を対象とした「親子安全教室」や実車を使った「ドライビングスクール」を開催しています。(Honda Cars富山)



熊本県全体の事故削減を目指し実技中心の「ドライビングスクール」、県内の交通事故状況や動画KYTによる安全運転のポイントをお伝えする「安全運転セミナー」を独自に開催しました。(Honda Cars熊本)



Honda Dream店主催の「九州ホンダドリーム合同ミーティング」では、低速バランスコンテストやAED*デモンストレーションを行いました。

※ AED(自動体外式除細動器)

心臓の心室が小刻みに震えて全身に血液を送ることができない状態(心室細動)になったときに、電気的なショック(除細動)を与え、心臓の働きを正常に戻すための医療機器



安全講習会では、信号機のない交差点の通過など、三輪スクーターの使用実態にあった課題を重点的にお伝えしています。(株)ホンダ二輪・新宿



「モンバル」を納車するときと納車1ヵ月後の2回、ご自宅の周辺を一緒に走って、具体的なアドバイスをしています。(オールホンダ販売(株))

安全に関する資格認定制度

■四輪販売会社

◎セーフティコーディネーター／

チーフセーフティコーディネーター

お客様に、店頭などで安全アドバイスができるHondaの社内資格を取得したスタッフ。チーフセーフティコーディネーターは、安全講習会の企画・立案、開催の実技指導を行います。

◎レインボーディーラー制度

安全に関するHondaの認定基準を満たした四輪販売拠点。

■二輪販売会社

◎ライディングアドバイザー

お客様に「二輪車の正しい取り扱い」や「安全な乗り方」を伝え、安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートします。

◎セーフティサポートディーラー制度

Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

■電動カート「モンバル」を扱う 汎用、二輪、四輪販売会社

◎モンバル安全運転指導員

店頭やお客様のご自宅などで、モンバルの安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスを行います。

お客様と社会の期待に応えて、 1人ひとりの心に響く教育を行っています

交通安全を伝える

Hondaの基地

交通教育センターは「危険を安全に体験する」Hondaの参加体験型の実践教育の場として活動しています。

1964年に鈴鹿サーキット安全運転講習所（現在の鈴鹿サーキット交通教育センター）、1973年に交通教育センターレインボー福岡が誕生、現在は全国8カ所に広がり、社内外の指導者養成と企業様や一般のお客様を中心に、交通安全の活動を推進しています。今年（10月現在）の方にご利用いただきました。

開設以来、最新の教育設備、機器、教育手法を積極的に取り入れ、教育の質の向上に努めています。1997年からは、Hondaの安全運転普及の各分野で活躍するインストラクターの指導力と運転技術の向上と均質化を図るため「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を開催しています。

運転傾向の変化に合わせた 教育プログラムの提供

交通教育センターを利用される企業様で最近関心が高いのは、新入社員のための安全運転教育です。運転免許を取得していなかったり、運転経験の少ない新入社員の方が増えているためです。

交通教育センターレインボー埼玉では、運転知識、運転経験不足を補うための、車庫入れ等の基礎的技能の時間を増やした研修を実施し、初心運転者のリス

ク低減を求める企業様のニーズに応えています。

実際の交通状況に近い映像を見ながら、集中力や危険予測力を高める「動画KYT（危険予測トレーニング）」も、時代に合った教育手法として企業様から注目され始めています。

企業や団体、地域の交通安全活動を推進するリーダーの交流の場として各地の交通教育センターが開催している「トラフィック・セーフティ・フォーラム」（全国5カ所開催）でも、今年は、企業ドライバーの事故傾向の変化に合わせた教育方法について、活発な意見交換が行われました。

交通安全を伝えるために その人の視点に立つことが大切

交通教育センターには、企業や個人の運転トレーニングだけでなく、地域社会からの教育依頼も増えてきています。

「Honda健康ドライブスクール」は高齢ドライバーのための少人数制の研修ですが、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、地元の茂木町から依頼を受け、地域の方を対象に開催しています。来年は対象を栃木県全域に広げ、開催される予定です。

茂木町が開いている小学生や中学生対象の交通安全教室にも協力しています。通学路を撮影した写真を使った危険予測トレーニングなど、生徒が安全に関心を持てるよう、色々な手法を考案しています。

企業安全運転研修会



企業・団体様への活動



動画KYT(危険予測トレーニング)は、受講者たちの討論を中心にした気づきを促す教育手法コーチングと、インストラクターの適切な指導との組み合わせで進められています。



「トラフィック・セーフティ・フォーラム」は、全国5カ所の会場で行われ、約400の企業・団体様より約800人の安全運転管理者などが参加しました。

個人のお客様への活動



交通教育センターの個人対象のスクール二輪HMS、四輪HDS*は、お客様のスキルやニーズに応じたさまざまなコースを用意し、多くの方々にご参加いただいています。HDSでは、今年、女性ドライバー向けのスクールを新設しました。



※HMS (Hondaモーターサイクリスト・スクール)
HDS (Hondaドライビング・スクール)

地域活動への協力



中学生対象の交通安全教室。通学路で撮影した写真を使った危険予測トレーニングや、車の死角体験を取り入れています。(アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ)



「Honda健康ドライブスクール」は少人数制で、コースを走り、録画した自分の運転場面を振り返りながら、加齢の変化を補う安全運転の方法を学びます。

指導者のスキルアップ



「セーフティジャパンインストラクター競技大会」は、安全活動を担う指導者の指導力と運転技術の向上と均質化を目的に開催されています。12回目の今年は、世界10カ国から119人が参加しました。

学習効果を高めるための教育機器、 交通安全教育プログラムを開発

シミュレーターの 機能拡充と活用拡大

Hondaは、交通安全の教育効果をより高めるために、教育機器の開発や教育プログラムの開発に取り組んできました。

シミュレーターは、危険予測力を高めるための重要な教育機器です。今年は、ライディングシミュレーターのマイナーモデルチェンジを行い、新たに「危険場面解説機能」などを開発し、受講者の認知・判断力をさらに向上できるようにしました。

自転車シミュレーターは、交通ルールとマナーをわかりやすく伝え、さらに危険予測力を高めることを目的に開発を進めています。シミュレーターは少人数での活用が基本ですが、さまざまな教育現場で検証を重ね、集合教育における効果的な活用方法の研究を行っています。

教え込む教育から気づく教育へ

Hondaが開発した四輪・二輪運転者のための参加体験型教育プログラムは、今日では広く日本のドライバー教育の中で実施されています。

近年力を入れているのは、気づきを促し、交通行動を変える座学の教育プログラムです。

四輪版動画KYT(06年)^{※1}は、シミュレーターと同じ臨場感のある映像で交通状況を動画で再現し、ドライバーの危険予測力を高めるトレーニングで、コーチ

ング手法^{※2}を取り入れて効果を上げています。今年開発した二輪版動画KYTは、四輪版と同様、企業の交通安全教育での活用が期待されています。

地域の歩行者、自転車の交通安全で 活用が進む「あやとりい」

Hondaは、幼児から高齢者まで、生涯教育に使われる自転車や歩行者対象の教育プログラムも開発し、地域に根ざした交通安全活動に活用されています。

三重県鈴鹿市の協力を得て安全運転普及本部の鈴鹿モビリティ研究会が開発し、作成した「あやとりい」シリーズは、幼児や児童、高齢者を対象にした参加体験型の交通安全教育プログラムです。三重県、岐阜県の小学校、幼稚園、老人会、警察署などと連携して、地域の交通安全教育に活用されています。

今年は、このプログラムに関心を持った北海道、埼玉県、熊本県などの自治体や小学校の要望に応じて、指導者研修や授業を実施しました。

また、将来幼稚園の先生を目指す岡山県や愛知県の大学生を対象に、幼児向けの「あやとりい ひよこ編」の指導法研修も交通教育センターで行いました。

「あやとりい」シリーズの受講者は年間約10万人^{※3}。「あやとりい」は、地域に密着した交通安全活動の中で着実に広がっています。とくに小学3、4年生を対象にした「あやとりい」は、より多くの方にご活用いただけるよう、指導方法の改訂や内容の充実を進めています。

※1 危険を予測するトレーニングの略称。危険のK、予測のY、トレーニングのTで作られた略称

※2 相手の中にあるリソース(知識、経験、考え)を指導者が望ましい方向に引き出すことにより、自ら課題を解決させようとする手法

※3 交通安全キャンペーンの実績を含む

ライディングシミュレーター

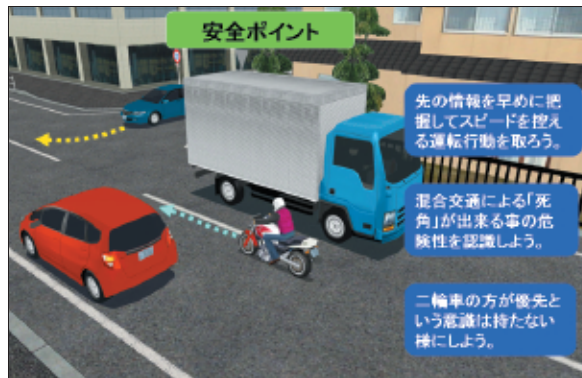


ライディングシミュレーター



解説画面

「危険場面解説機能」は、ライダーがどのように危険状況をとらえ、どのように対応すれば安全を確保できるか、具体的なポイントを画像とコメントでわかりやすく示します。



アドバイス画面

自転車シミュレーター



集合教育ができる教育手法を研究しています。

二輪版動画KYT



危険を感じた箇所で「危険予測ボタン」を押し、そこでどういう危険を感じたか、危険を招かないためにどうすればいいか、話し合いながら危険予測力を高める、コーチング手法を活用した参加型トレーニングです。

交通安全教育プログラム「あやとりい」



北海道斜里大谷幼稚園で行われた「あやとりいひよこ編」。



北海道斜里郡三町の高齢者等交通安全大会で「あやとりい長寿編」を紹介しました。



岡山短期大学幼児教育学科の学生が「あやとりいひよこ編」の指導法を学びました。

地域や団体との連携で 交通事故を減らす活動を広げています

教習所指導員のレベルアップと交流

交通安全の関係団体や業界団体と連携し、さまざまな活動に取り組んでいます。

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の指導力のレベルアップと交流を図る「第8回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」が、鈴鹿サーキット交通教育センターで開催されました。自動車教習所には、地域の交通教育センターとして、運転免許取得時の教育だけでなく、地域に密着した交通安全活動が期待されています。「大会の経験や感動を持ち帰り、さらなるレベルアップにつなげたい」と自動車教習所の経営者は大会への期待を述べています。

社会の動きに合わせて交通安全を推進

春と秋の全国交通安全運動に連動し、ALL Honda*で「Hondaセーフティキャンペーン」を実施しました。ホームページでの情報発信や、お客様へ安全啓発ツールの配布、Honda関連車両に「後席シートベルト着用促進ステッカー」の貼付などを行い、交通安全を推進しました。

道路交通法改正など交通社会の変化に合わせて安全啓発冊子を作成し、お客様にお配りしました。

「女性のための運転サポートBOOK」は、増加する女性ドライバーに対応し、子どもを同乗させるときの

注意点などの安全運転情報やエコドライブのポイントを紹介しています。

「みんなでカチッとBOOK」は、改正道路交通法や全席シートベルト着用の重要性、正しい着用方法などをお伝えしています。四輪販売会社での安全アドバイスや安全講習会などで活用され、これまでに約61万部を配布しました。

業界活動への積極的な参加

自動車業界や団体が取り組む交通事故削減に向けた活動にも、積極的に参加しています。

(社)日本自動車工業会の一員として、今年は高齢ドライバーのための交通安全教育プログラム「いきいき運転講座」の制作と普及に協力しました。交通安全トレーニングと危険予測に必要な脳の働きを高める交通脳トレを組み合わせた内容で、高齢者自身がリーダーになり、グループで話し合いながら、交通安全力と生きる活力を高めていくことが特徴です。また、高校の交通安全教育指導者の養成協力なども進めました。

二輪車では、(社)全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」、高校生の「二輪車安全運転講習会」、「グッドライダー・防犯登録」などの諸活動を、地域の二輪販売店と協力して進めています。

※ Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社(Honda Dream)、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ

第8回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会



地域の交通安全のための活動



第41回二輪車安全運転全国大会の審判業務などで協力。



埼玉県の「平成20年春の全国交通安全運動スペシャル～セーフティマインド2008 心から心への交通安全～」と東京都の「平成20年 秋の交通安全運動 高齢者交通安全のつどい」にASIMOが協力しました。



第40回全国白バイ安全運転競技大会に審判業務などで協力。

社会の動きに合わせたHondaの活動



安全運転普及本部の情報紙「Sj」。地域の交通安全活動にお役立ていただけるよう、全国の老人福祉センターや一部の小学校にも配布対象を広げました。
(<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>)



うちわ



ステッカー



お客様に配布した安全啓発小冊子



クリアファイル

「Hondaセーフティキャンペーン」に合わせて作成した安全運転啓発ツール

業界の活動



「いきいき運転講座」の教材



(社)日本自動車工業会と(社)全国二輪車安全普及協会の交通安全キャンペーンポスター

アジア、ヨーロッパなどで参加体験型の実践教育は着実に広がっています

基本活動は店頭での安全アドバイスと交通教育センターでの実技教育

1972年にスタートした海外での安全運転普及活動は、現在、33か国に広がっています。

海外でも活動の主流は、販売店店頭でお客様に安全アドバイスを行う「手渡しの安全」と、参加体験型の実践教育を交通教育センターで行うことです。さらに政府や自治体と連携して、交通安全に貢献している現地法人もあり、活動は地域に合わせて広がりを見せています。

店頭活動をさらに充実させたタイ 東欧に初の交通教育センター誕生

販売店店頭での安全活動は、海外でも積極的に展開しています。タイのA.P.Hondaのように、店頭安全アドバイスや実技指導を継続的に実施できる体制を構築して、活動に取り組んでいるところもあります。同社では、二輪販売店に安全指導ができるスタッフを2人以上置くことを制度化し、危険予測トレーニングができる教育機器「ライディングトレーナー」を使った店頭アドバイスやスクールを行っています。

参加体験型実践教育の場である交通教育センターが、今年3か国で新たに誕生し、専用教育施設を持つ国は18か国になりました。

フィリピンの交通教育センターは、Hondaの3つの現地法人が出資する基金で運営されています。二輪と

四輪の免許取得時教育と免許保有者向け教育の両方に重点を置いて活動し、フィリピンの交通安全教育に貢献していきます。

ハンガリーにオープンした交通教育センターはHondaとして東欧初の施設で、今後Hondaの安全運転のノウハウを伝えていく拠点として重要な役割を担っています。

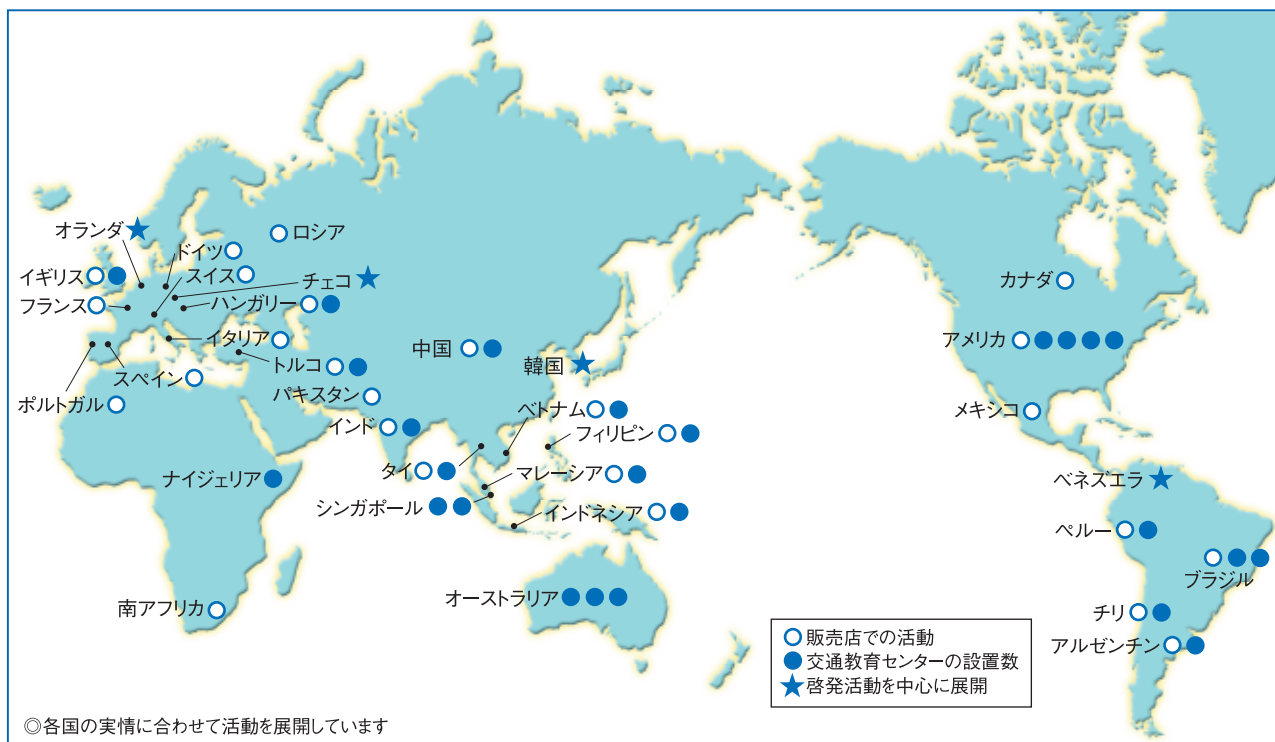
オーストラリアのHonda Australia Motorcycle & Power Equipmentは、3番目の交通教育センターを、オーストラリアで最大の二輪マーケットであるブリスベンにオープンさせました。ここでは免許を持つ個人や企業のライダーを対象に教育を行っています。活動の場は今後さらに増えていく予定です。

中国一の交通安全都市づくりを目指す五羊本田

中国の五羊本田は、社会活動として交通安全への取り組みを本格的に開始しました。所在地の広東省増城市で行政、市民と協力し、中国一の交通安全モデル都市づくりを進めています。

その活動の1つとして今年の4月から、小学校2校で、日本で行っている小学生向けの交通安全教育プログラム「あやとりい」の中国版を使った授業がスタートしました。子どもたちは、目を輝かせて交通安全の課題に取り組みました。来年度以降、今年度の実績を踏まえて、他の小学校でも展開していく予定です。

世界33か国で活動を展開（日本を除く）



タイ



A.P.Honda／販売店ではライディングトレーナーを置き、安全アドバイスに活用しています。実技トレーニングコースを持つ販売店もあり、ライダーや子どもを対象にした交通安全教育を行っています。

フィリピン



Honda Safety Driving Center／二輪、四輪の免許取得時教育や企業対象の安全運転講習を行っています。安全運転教育の分野でフィリピン自動車業界のリーダーになることを目指しています。

ハンガリー



Honda Hungary／トルコとシンガポールで指導者養成研修を受けたインストラクターの指導で、ライダーは楽しく安全な二輪車の乗り方を学んでいます。

オーストラリア



Honda Australia Motorcycle & Power Equipment／メルボルン、シドニーに次いで3番目になるブリスベン交通安全教育センターの開所式には、クイーンズランド州政府の交通大臣が出席。Hondaの交通安全に対する一層の貢献が期待されています。

中国



五羊本田／中国版「あやどいり」の授業は、指導者講習を受けた小学校の先生が担当します。

第1回Honda世界安全運転普及活動サミット



第1回Honda世界安全運転普及活動サミット開催（10月、鈴鹿）。安全運転普及活動をグローバルな視点で考え、発展させるために、10カ国から海外法人の社長や安全運転普及活動の責任者など24名が参加して行われました。



A アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ

活動開始/1997年
日本初の「スリパリーコース」をはじめ、さまざまな危険を安全に体験できる先進施設を活用し、官庁・企業・団体や一般向けの各種教育プログラムを用意



B 交通教育センターレインボー 埼玉

活動開始/1980年
直線600mのコースを活用した高速ブレーキ、危険回避等の訓練が可能。官庁・企業・団体をはじめ地域密着のさまざまなニーズに応える教育プログラムを用意



C 交通教育センターレインボー 和光

活動開始/1997年
地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている



D 交通教育センターレインボー 浜松

活動開始/1982年
地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得研修も行っている



E 交通教育センターレインボー 浜名湖

活動開始/2002年
教育効果を上げるための独自の運転診断システムを取り入れた教育プログラムを用意。官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールを開催

交通教育センター

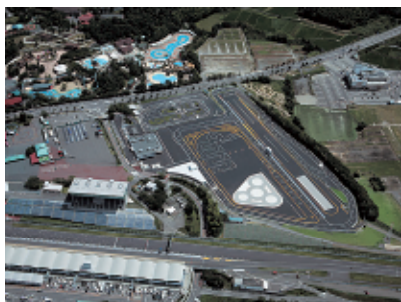
・センター数	8カ所
・指導者数	99人
・四輪研修車両	534台
・二輪研修車両	1,057台

自動車教習所 (Hondaグループ)

・教習所数	4カ所
・教習指導者数	151人
・四輪教習車両	154台
・二輪教習車両	213台



- ①安全運転普及本部
- ②鈴鹿モビリティ研究会
- ③熊本安全運転普及グループ



F 鈴鹿サーキット交通教育センター

活動開始/1964年
官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般スクールなどお客様ニーズに応え、鈴鹿サーキット国際レーシングコースを利用した教育プログラムもある



G 交通教育センターレインボー 福岡

活動開始/1973年
地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている

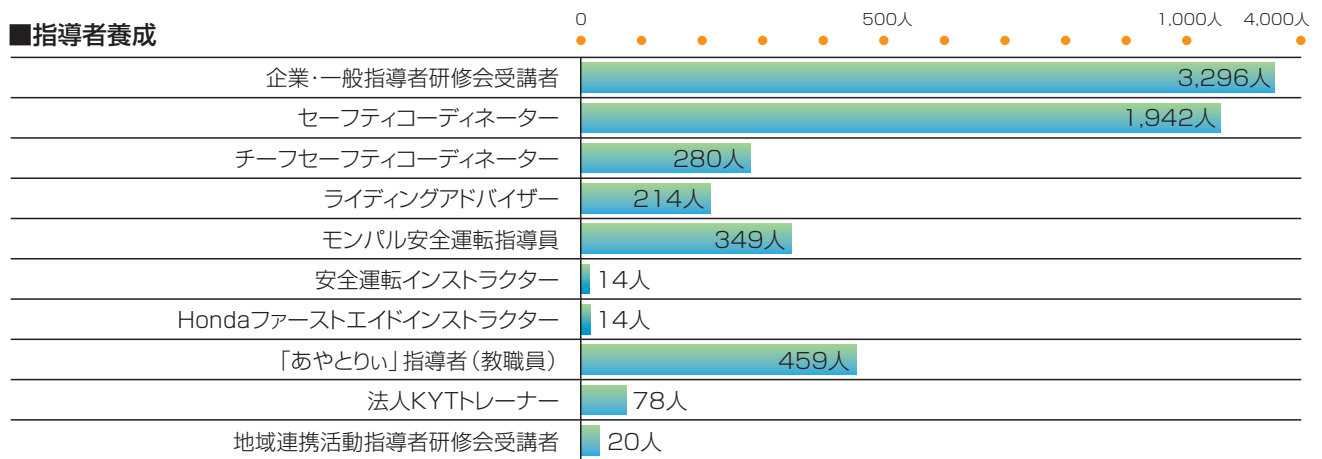


H 交通教育センターレインボー 熊本

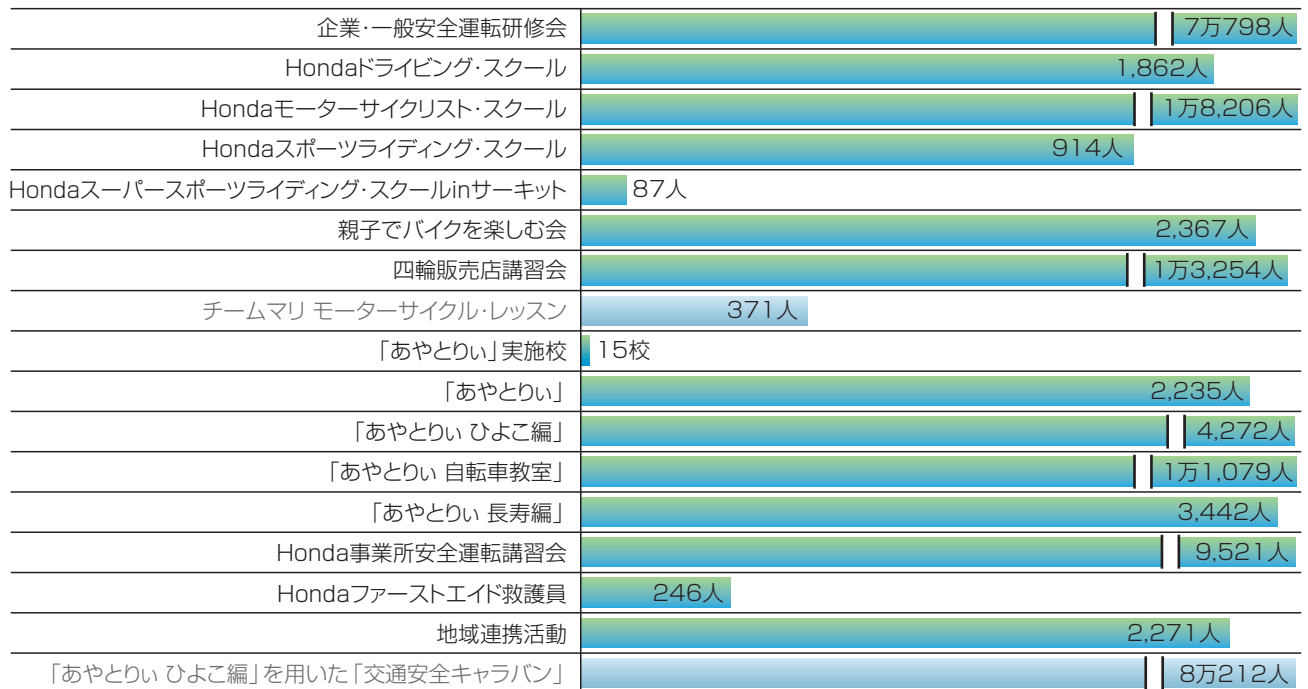
活動開始/1989年
官庁・企業・団体をはじめお客様ニーズにあわせて、地域に密着したさまざまなスクールを開催。サーキットコースを使用した教育プログラムも用意

2008年活動実績 (2008年1月～2008年12月末見込み)

■指導者養成



■研修会等参加者

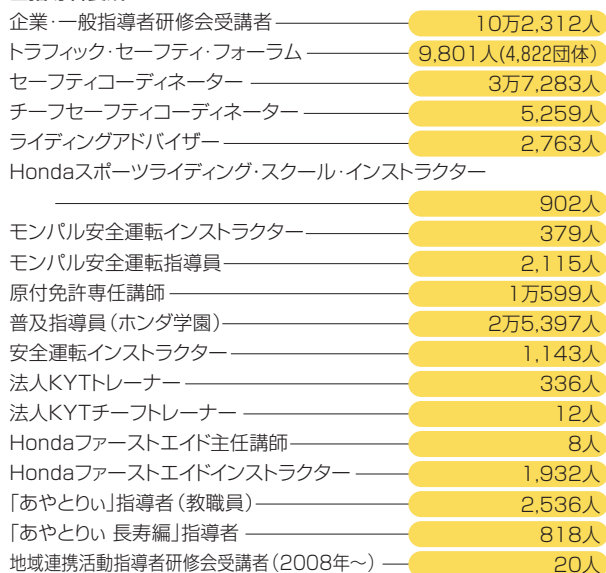


■海外

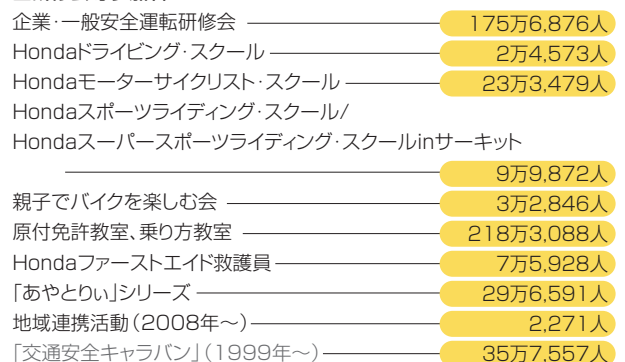


活動累計 (日本国内1970年～2008年12月末見込み)

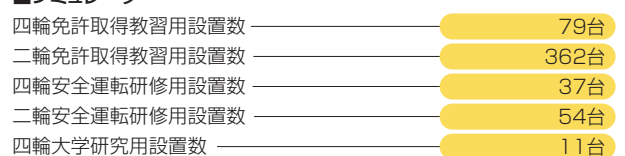
■指導者養成



■研修会等参加者



■シミュレーター



07年

12月

08年

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

- 中国安全運転担当者会議(広州 12/12、08年7/8)
- Hondaハンガリーライディングトレーナー研修(和光 1/29)
- Honda事業所と交通教育センター近隣の小学校に「Sj」紙発送先拡大(2/10)
- タイ運輸局の交通教育センター埼玉視察(2/15)
- Honda Cars熊本に自転車シミュレーターを貸出協力(3/3~)
- 女性ドライバー向け小冊子「女性のための運転サポートBOOK」を発行(3/10)
- Honda Motor Rus(ロシア)チーフインストラクター研修(埼玉 3/25~28)
- 熊本安全運転普及グループ発足、活動スタート(4/1)
- Hondaハンガリー交通教育センターオープン(4/3)
- 「平成20年春の全国交通安全運動スペシャル～セーフティマインド2008心から心への交通安全～」にASIMOが協力(4/5)
- 春の全国交通安全運動と連動した「Hondaセーフティキャンペーン」で「後席シートベルトの装着」等を訴求(4/6~5/10)
- Hondaの関連会社組織「熊輪会」安全運転普及活動を開始(4/6)
- フィリピンHonda Safety Driving Centerオープン(4/9)
- 中国版「あやとりい」スタート(中国 広東省増城市 4/22)
- 富山県内の全Honda四輪販売会社が安全講習会を展開(4/12、19、9/27~28)
- 東京都環境科学研究所のエコドライブ普及イベントにドライビングシミュレーター出品協力(日本科学未来館 4/19)
- 「Enjoy Honda SUZUKA」で安全啓発イベント実施(5/10~11)
- 安全・健康・快適フェア2008にライディング、ドライビング、自転車シミュレーター出品協力(5/22~24)
- 「第8回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催(6/2~3)
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員研修会へ協力(6/5~6)
- Honda Cars東京中央に自転車シミュレーターの貸出協力(6/23~3/末)
- 熊輪会インストラクター養成研修会開催(7/1~4、29~8/1)
- 後部座席シートベルト着用理解促進のための安全啓発小冊子「みんなでカチッとBOOK」発行(7/7)
- 九州人吉地区(九州武蔵精密)親子交通安全教室開催(7/12)
- ホームページ「Hondaの交通安全」をリニューアル(7/25)
- 「トラフィック・セーフティ・フォーラム」開催(埼玉 8/1、熊本 10/2、鈴鹿 10/6、もてぎ 10/29、浜松 11/7)



9月

10月

11月

- Honda Cars富山の「親子安全教室」に自転車シミュレーター出品協力(8/2)
- ホンダ夏祭りに「シートベルトコンビンサー・エアバッグ衝撃体験と子供自転車クイズ」コーナー出展(熊本製作所 8/2)
- 「第41回二輪車安全運転全国大会」審判派遣協力(鈴鹿 8/2~3)
- 東京都リハビリテーション病院にリハビリ研究用としてドライビングシミュレーターを貸出協力(8/26~)
- 熊本県大津町の小学校(室・護川)で「あやとりい交通安全教室」開催(9/2、大津南10/7)
- オーストラリアHARTプリズベンセンターオープン(9/4)
- 交通安全イベント「平成20年秋の全国交通安全運動高齢者交通安全のつどい」にASIMOが協力(調布市 9/13)
- 九州Honda Dream店二輪ツーリング大会にて「低速バランスコンテスト・親子バイク教室・AEDデモ」の実施に協力(9/20)
- 秋の全国交通安全運動と連動した「Hondaセーフティキャンペーン」にて「二輪プロテクターの装着」等を訴求(9/21~10/10)
- 青森モータースクールの高校生参加体験型講習に自転車シミュレーター貸出協力(9/22)
- 警察庁「第40回全国白バイ安全運転競技大会」審判派遣(10/11~12)
- 第1回世界安全運転普及活動サミット(10/15鈴鹿)
- ドリームモータースクール昭和のイベントに自転車シミュレーター出品協力(10/26)
- 「第12回セーフティジャパンインストラクター競技大会」開催(鈴鹿10/17~18)
- 九州イベント「カントリーゴールド2008」において交通安全を訴求(10/19)
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員養成講習会及び審査指導協力(10/27~28、11/20~21)
- 佐賀インターナショナルバルーンフェスタで親子バイク教室等を通じ、交通安全を訴求(11/1~3)
- JICAの活動支援のためカンボジアにインストラクターを派遣(11/3~7)
- Hondaマレーシアのスタッフが日本の安全運転普及活動を視察(浜名湖、Honda Cars兵庫11/7)
- 指定自動車教習所全国大会にライディングシミュレーターデモンストレーション(11/7)
- 熊本県大津町のからいもフェスティバルに「シートベルトコンビンサー・エアバッグ衝撃体験と子供自転車クイズ」コーナー出展(11/9)
- Honda交通安全シンポジウムin沖縄(11/13)
- Honda Racing Thanks Dayで安全運転イベント実施(もてぎ 11/24)
- 交通安全や渋滞防止への理解を促進する「セーフティ&スムーズ東京フェア」にライディングシミュレーター貸出協力(11/30)



2008 交通社会の動き

1月

- 2007年の全国の交通事故死者数は7年連続の減少で5,744人に。1953年以来54年ぶりに5,000人台になった。交通事故発生件数(前年比6.1%減)も負傷者数(前年比5.8%減)も3年連続で減少したが、負傷者数は9年連続で100万人を超えた

2月

- 「交通事故死ゼロを目指す日」の実施(2/20、4/10、9/30)

3月

- 悪質・危険運転者対策に関する改正道路交通法の施行6ヵ月間(2007年9月19日～2008年3月18日)、事故件数(前年比22.5%減)、死亡事故件数(前年比14.4%減)ともに減少する

4月

- 春の全国交通安全運動、子どもと高齢者の交通事故防止を基本に展開(4/6～4/15)
- (社)日本自動車工業会の春季交通安全キャンペーン。スローガンは四輪「後席もシートベルト」、二輪「あごひも、しっかり」(4/6～6月末)
- 国際交通安全学会研究調査報告ならびに学会賞贈呈式(4/18)
- 警察庁とJAFが行ったチャイルドシートの使用状況等の全国調査(4/20～30)では、使用率が50.2%で、2003年の調査以来、5年ぶりに半数を超える

6月

- 自転車利用者対策、被害軽減対策、高齢運転者対策等を図るための規定の整備など、改正道路交通法の一部を施行。聴覚障害者標識を新設(6/1)

7月

- 二輪業界が8月19日の「バイクの日」を中心にバイクライフのすばらしさを伝える「バイク月間」を展開(7～9月)

9月

- 秋の全国交通安全運動、高齢者の交通事故防止を基本に展開(9/21～30)
- (社)日本自動車工業会の秋季交通安全キャンペーン。スローガンは四輪「後席もシートベルト」「夕暮れ前にライトオン」、二輪「あごひもしっかり」、四輪・二輪共通で「自転車も、車道を走る仲間です。自転車の動きに十分注意を」(9/21～12月末)

10月

- 全国一斉飲酒運転根絶キャンペーンを展開(10/1～31)

その他の主な情報公開について

Hondaでは、年次の主な実績報告として下に示す冊子を発行し、インターネットを通じて公開しています。



CSRレポート2008

HondaのCSRの考え方と「事業」「環境」「社会」「品質・安全」における取り組みの2007年度の主な実績をまとめた報告書

<http://www.honda.co.jp/csr/>



アニュアルレポート2008

Hondaの2007年度(2008年度 3月期)の業績の概要および今後の取り組みをまとめた報告書

<http://www.honda.co.jp/investoros/annualreport/>

環境



Hondaの環境年次レポート2008

Hondaの環境取り組みの考え方と2007年度の主な実績および今後の目標をまとめた報告書

<http://www.honda.co.jp/enviromental-reort/>

社会活動



Honda社会活動2008

Hondaの社会活動の考え方と2007年度の主な実績をまとめた活動報告書

<http://www.honda.co.jp/philanthropy/repot/>

安全



2008年安全運転普及活動報告書

Hondaの安全運転普及活動の考え方と2008年の主な実績をまとめた活動報告書

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/action/>



本田技研工業株式会社 安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1 TEL.03-5412-1736
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>



本冊子は再生紙に植物インクで印刷しています。